

新基地建設反対名護共同センターニュース

「勝つまで絶対にあきらめない！」 へり基地反対協 護岸工事着手4年目の抗議集会



集会でへり基地反対協・仲本興真事務局長は「勝利のカギは、あきらめずに抗議の声を上げ続けることだ」と強調。豊島晃司共同代表が「陸や海で抗議を続けているこの状況を、日本の隅々まで伝えたい」とあいさつ。抗議船船長やカヌーチームのメンバーがリレートーク。抗議船・女性船長のチエさんは「これからもここに集まり続けましょう」と訴えました。写真左は発言中のチエさん（右端）

オール沖縄会議・福元事務局長が連帯挨拶

オール沖縄会議の福元勇司事務局長が「このたたかいは日本を戦争に巻き込ませないためだ。誇りをもって共に頑張ろう！」と連帯のあいさつをしました。

へり基地反対協議会は24日、「K9護岸」の工事が着手されてから4年目になるのを前に、辺野古の浜で抗議集会を開催、約60人が参加しました。台風2号の影響のため当初予定した海上行動を浜での集会に変更したものです。

陸や海の活動を日本の隅々に伝えたい

うるま市長選 照屋氏が惜敗

うるま市長選は25日投開票され、「オール沖縄」勢力が推薦した照屋寛之・沖縄国際大学名誉教授が大激戦・大接戦の末、1,264票差で惜敗しました。

選挙事務所までデニー知事はじめオール沖縄勢力が一堂に集まり開票状況を見守る中で一時、照屋氏がリードする局面もありましたが、11時30分に地元紙2社が相手候補の「当確」と報道しました。

照屋氏は「皆さんの期待に応えられず申し訳ない。今後一市民として市政発展に関われれば」と話しました。



コロナ禍でも違法工事続ける防衛省



沖縄県でも新型コロナウイルスの感染拡大が加速し、連日100人を超える事態です。しかし、防衛局は県の行政指導を無視し、違法な辺野古新基地建設工事を強行しています。(写真は26日朝のゲートの様子)

「海保ボート カヌーに衝突」反対協が抗議

へり基地反対協は4月19日、沖縄市の中城海上保安部を訪れ、抗議し調査と報告を求めました。これは15日、キャンプ・シュワブ沖で、カヌーで抗議中の男性が海上保安庁のゴムボートの衝突を受け、頭部と胸部の打撲で全治2週間のけがを負ったことがあったからです。男性は「ゴムボートはカヌーではなく私に向かってきた。死ぬんじゃないかと思った」と話しています。



写真：中城海上保安部前で「危険な過剰警備はやめよ！」と抗議の声を上げるへり基地反対協の人々

“再編交付金頼みの市政は防衛省直轄領に”

いーなく会が講演会「沖縄振興政策と名護」



講演会は稲嶺進前名護市長や同市長選に出馬表明した岸本洋平市議（右写真）も参加。岸本氏は「自立した財源を確保する市政を実現したい」と挨拶しました。



川瀬京都府立大名誉教授が講演
 いーなく会（名護市政を考える女性の会）は23日、名護市内で結成10周年総会と「沖縄振興政策と名護」と題した講演会を開催、川瀬光義京都府立大名誉教授が講演し約50人の市民が参加しました。
 川瀬氏は、政府による沖縄振興特別措置法など沖縄県と名護市への振興政策と基地との関連の歴史的特徴を解説しました。名護市では2018年度以降、米軍再編交付金が復活し市民サービスへの財源に充てられた。防衛省資金をあてにするのは防衛省直轄領となる。公共サービスの財源確保の王道は税収を確保することであり、政治の責任である、と強調しました。